

報 會 窓 同 東 京 高 館

第 23 号 平成 21 年 2 月

発行人 大隈 清道

〒273-0027 千葉県船橋市海神西

1-1193-1-1006



会長挨拶

発刊に当って

大隈 清道 (S29 年卒)

一昨年、館高東京同窓会は発足 25 年を迎え、記念事業の一環として“25 年誌”を発刊しました。これには熱心な皆様から膨大な御寄稿を仰ぎ、500 ページを超える豪華版の完成を見ることが出来ました。この成果はまた、編集にあたりその筋のプロフェッショナル小林淳一氏 (26 年卒) の献身的なボランティアがあってこそ達成できたもの、皆様にも改めてこの経緯を思い起こしていただき共に敬謝の意を表したいと思えます。

ところで、財政的な視点からすれば、“25 年誌”の発刊は大いなる背伸びであったことは確かで、最も費用のかかるプロフェッショナル・サービスを無償で受けながら、危機的状況に陥り、後遺症はいまだに尾を引いています。

その渦中であって昨年は、会員の方々からの御寄稿を掲載した会報の発行は断念を余儀なくし、会務報告のみのものとなりました。しかもその決断が数名の方からの御寄稿の後になるという手順前後も加わり、大勢の方々にも多重のご迷惑をおかけしてしまいました。不手際のほど、深くお詫び申し上げます。

財政難の後遺症、全快には程遠い現状ですが、今年は恒例の会報の発行を是非という声に押されて些かなものでも何とか編纂する運びとなりました。

来期には、さらに充実したものが発刊できるよう今後も努力を重ねてゆく所存です。皆様の温かいご支援とご尽力を切にお願いする次第です。

第27回総会報告

去る平成20年10月25日(土)、標記会員総会が開催されました。

今回から、会場を皇居北の丸近く、靖国神社も近い都心の、ホテルグランドパレスに移し、一新された新執行部が運営に当たりました。当日は、懇親会に先立ち、落語芸術協会所属の真打落語家、柳家蝠丸師匠による古典落語「芝浜」をたっぷり堪能するなど、これまでにない趣向を凝らした会となりました。

総会は、馴れない運営の下ではありましたが、出席された会員諸氏のご協力によりましてスムーズに議事を進行し、予定された議題は総て承認可決されました。ご来賓の皆様及び会員諸兄に深甚なる敬意を表します。

1. 参加者 51名

(イ) ご来賓 14名 本校校長・同窓会会長・支部長、安楽岡一雄館林市長、群馬県人会連合会会長並びに他校東京同窓会関係者の方々です。

(ロ) 会員 37名 会員は、長年出席いただいていた先輩が高齢化に伴い欠席が目立ちましたが、新たに、若い年代の方の参加がみられ

たなど、執行部ともども世代替わりの様相を呈してきました。

2. 事業報告、会計報告並びに決算は総会開催案内のとおり、予算案は下表のとおりです。

3. 会則改正

(イ) 一昨年の25周年記念事業の成功に伴い会の財政基盤が脆弱になってしまい、事業遂行もままならない状況となっていたことから、年会費を2,000円から3,000円に改定することを提案し、満場一致で承認されました。これに伴い、会則は
第3章 会計
第14条 2 会費は年額3,000円とする。
に改まりました。

4. 組織活性化

(イ) 若い年代の会員への参加呼びかけを組織的に行う必要が強調され、趣味の会の新設、同期会の開催、サークル・部活会、地域会の取り込みを推奨する必要性などが提案されました。

館林高校東京同窓会 第28期予算書 (2008年10月1日～2009年9月30日)

収入の部

費用	金額
前期繰越金	85,140
年会費	540,000
総会費	320,000
懇親会・会費	500,000
広告料	50,000
雑収入	84,860
合計	1,580,000

支出の部

費用	金額
総会設営費	400,000
会議・会合費	400,000
印刷費	100,000
通信費	450,000
交流費	130,000
雑費	20,000
次期繰越金	80,000
合計	1,580,000



学問ならぬ同窓会のすすめ

S51年卒 河村 博

ここ数年、母校で開催される「進路講演会」に参加する機会があり、その際、頂戴した「同窓会会報」で東京同窓会の存在に目が留まりました。「こんな組織があったんだあ」というのが最初の印象で、次に思い浮かんだのが「どんな人達がいるのかなあ」でした。しばらく気換かりながらも、放置している状態が続きました・・・。

さて、私は母校卒業後、東京の大学を出て今の会社に入社し、早や27年の月日が経ちました。ある程度、責任のある仕事を与えられ、公私共、まあまあ満足に行く時間を過ごし「齢五十」を迎えたところでした。そんな折、「東京同窓会」と出会いました。気掛かりなもの何なのかと考えて見ると、自然に、人生の来しこの方に思いを致す事（やや大袈裟ですが）となりました。結論的には、「このままの安穩とした人生でいいのか」と言う警鐘だったのかもしれませんが。それは「まだまだ、ぐるりの世界を広げ、自分を向上させる」「その為、億劫がらずに一步を踏み出す」事への気付きだったのです。（その後、事務局へ連絡し、同窓会参加の意思を伝えました。）

◆同窓会は「人材の宝庫」

具体的に言うと、同窓会に参加すると言う事は当然に、人間関係の広がりを持つと言う事ですし、知己を増やすと言う事です。同窓会は「人材の宝庫」です。多士済々の先輩や後輩が集い、一人一人の「経験や知識」など、色々な情報を交換させる場です。たまたま同じ学校を卒業したと言うだけで、この貴重な機会への参加資格を得るのです。とりわけ、

若い人（私も含めて？）には不足する「経験や知識」を補う、絶好の機会だと言うのが私の正直な思いです。

同窓会は年配者（？失礼）が多く、特に若い人には「話しが合わず、場違いな感じがする」との声を聞きます。「同級生がいなければ話が出来ない」と言うのは単に同窓会を「懐かしさ」だけで捉えているからでは無いでしょうか。それは少しも可笑しい事ではありませんが、若干、消極的な感じがします。もっと積極的に同窓会は「人生の先達や若い感性に学ぶ場」と考えては如何でしょうか、少し重い感じがしますか？是非、どしどし参加して頂き、自身の考えや経験などを話す事で、足りなかつたり気付かなかつたりした部分を補い、人間の幅を広げる一助としては如何ですか。

30・40代の方は仕事に追われ、そんな余裕が無いと思われるかもしれませんが、だからこそ尚更、「人生の備しろ」作りの絶好の機会と考え、ちょっと時間を割いて見ては如何ですか。重い腰を上げ、参加の一步から始めませんか？

まだまだ寒さ厳しい折、赤城おろしの冷たい北風に向かって、ペダルを踏み締め通った母校に思いを致しつつ・・・。





S54年卒 小林 功一

無関心が悩みの種

— P T A 活動に参加して —

◆PTAとは

P T A活動が存在したことを、私自身の子供の頃に記憶がない。これを読まれる皆様はいかがでしょうか？

まず、P T Aは何の略かという、Pはペアレンツ=親、Tはティーチャー=先生、Aはアソシエイツ=組織であります。従って、戦後、アメリカにより導入されたP T Aは保護者と先生の共同体のことを言います。親ではなく私は保護者と呼ぶようにしています。これは、昨今の離婚の増加により片親が増え、近所に住む（同居していないケースが多いです）お年寄りの参加が増えているからです。

私がP T A会長をしている小学校は世帯数が六百近いのですが、毎週のように家族の変更通知が来ると校長先生が嘆いていたのを耳にしました。よく荒れている学校というのを聞きますが、親の目が行き届いていない子供の多い学校には、その傾向があるようです。お年寄りの参加ということがありますが、運動会で敬老席を用意しているのですが、毎年席を増加しています。また、運動会の他に入学式・卒業式のイベントがありますが、これも私の経験では母親のみが出席するというものでしたが、現在は両親が出席するのが当たり前の時代となっています。

これはいまや、幼稚園・小学校に限らず、親の有給休暇消化の最大の理由となっているのでは！）。

◆今時の親たち

そろそろ本題に入りますが、平成生まれの子供たちは、任天堂の開発したゲーム機のおかげで外ではあまり遊びません。また、モンスターペアレンツに代表されるように親が学校に対して過干渉となり、また、先生を敬う気持ちが低く、私の方が良い大学を出てるわよと言わんばかりに、子供の前で先生の悪口を言うため、子供たちも先生を敬う気持ちが薄れてきています。

先生は体罰ができないため、指導方法がより難しくなり、精神的に病み、休職数が年々増加しており、P T Aとして頭の痛い問題となっています。

学校を取り巻く地域の組織体（足立区では開かれた学校作り協議会と呼んでいます）では、子供たちへの教育の前に、親を教育しなければならない事を問題視しています。各自治体では、多種にわたり、保護者向けの講演会・イベントを開催していますが、問題を起す児童の保護者は無関心を装っていますので、そのような会にはほとんど参加しないのが実情です。

◆親の参画を目指して

取り返しのつかない問題を起こして初めて参加するケースになっては遅いため、PTAとしては、まず、学校に来てもらうことを目的として、様々なイベントを開催しています。

毎年子供たちのためにチャレンジフェスタを開催しているのですが、その手伝いのため、3割以上の保護者が参加してくれています。学年で行う行事も保護者の参加率の高い、先生・児童・保護者の三者が一緒に行えるものを心がけています。

現在、文部科学省の薦めで、放課後学校を子供たちに開放する事業を進めています。私の子供のころの記憶では、放課後は家にカバンを置いてから、学校で遊ぶのが普通でしたが、今の時代は、放課後児童は学校に入るこ

とができません。

この事業は種々の意味で推進していますが、日本でも格差社会が広まり、また少子化により、塾に通える家庭とそうでない家庭、一人孤独に親が返るまで家にいる児童、外で遊ばずゲーム機にのみ熱中する子供たちなど、多くの問題を解決するためやっとな国が動いたものと思います。

この他に、地域スポーツ型（ボランティアの方々の運営）の事業など、子供たちのために行われているものがたくさんあります。

放課後に行う事業は、スタッフに対して有償ですが、大抵は無償です。子供たちのため、ひいては自分のためのPTAが活躍・活動する機会はますます増えていますが、無関心からなのか、手伝う人が増えないというのが悩みの種であります。

東京同窓会『親桜懇親会』開催のお知らせ

館高東京同窓会は、会員諸氏との懇親・交流を図る目的で下記の次第による親桜懇親会を開催します。

会場となるホテル グランドパレスは、皇居北の丸公園、靖国神社に近く、なかでも千鳥ヶ淵の散策には大変な人出が予想される。都内随一の桜の名所まで数分です。この機会に早めにお出かけいただき親桜散策を試みてはいかがでしょうか。

春のひと時、ぜひ先輩、同期生、後輩入り混じっての懇親会にお気軽にご参加ください。より多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

日 時 平成 21 年 3 月 28 日（土）午後 5 時 30 分～
会 場 ホテル グランドパレス（1F レストラン カトレア）
東京都千代田区飯田橋 1-1-1 TEL 03-3264-2401
交通＝地下鉄の東西線、半蔵門線、都営新宿線「九段下駅」下車が便利です。
会 費 7,000 円（当日受付）
申込先 〒273-0027 千葉県船橋市海神西 1-1 193-1-1006
大隈 清道方
館林高校東京同窓会事務局
TEL / FAX 047-433-6790
申込締切 平成 21 年 3 月 15 日（日）

「世界で最も美しいスポーツ」を楽しむ

— 少年・少女サッカーを指導して 32 年 —



S36年卒 大山 稔

私のサッカーとの係わりは、館高1年生の10月からです。東京、熊本の二つの国民体育祭とインターハイに出場しました。

◆長女の入部がきっかけで

1977年の夏、私は三年生の長女と幼稚園児の次女を連れ、家族四人で中野区から小平市に引っ越してきました。長女は二学期から小平第十小学校に転入したのですが、同校ではその年に学校長の命によりサッカークラブが誕生しており、長女はそのサッカー部に入部したのです。

心配になり見学にいった後コーチとして手伝いをしたのが、私が少年サッカーと係わりを持つようになった始まりです。翌年の市の大会に向けて、早朝7時30分から8時15分までの時間、週に4日朝練習を強化策として行なったのですが、これがそのまま現在まで32年間も続けるハメになっている次第です。

1980年には、一緒に子供たちを指導していた高野コーチと共に、選手のお父さんたちと「ファザーズイレブンチーム」を作りましたが、そして、これが後のコーチングスタッフの母体となりました。現在、コーチは全員がボランティアとして、朝の練習、土曜・日曜日の学年担当併せて14名が張り付いています。内3名は当クラブの卒業生です。

◆読売杯サッカー大会で優勝

創部以来32年間になり、協力してくれたコーチの総数は47名になります。卒業生は1000人を超える数になりました。

この間、日本代表に女子選手2名を輩出しています。小平市大会の優勝は男子、女子ともに12回、招待試合はそれぞれ5回、3回を刻みました。

特筆すべきこととして、昭和58年女子読売杯サッカー大会の優勝と東京都大会の準優勝2回が挙げられます。当時の女子のレベルでも、センタリングのボールを胸で止めてボレーシュートを決めるまでに向上させました。男子は東京都大会単独校としてのベスト8があります。

小平第十小学校では、全校生徒480名の中でサッカークラブに138名が在籍したこともあります。現在は70名程となっています。

◆使命は達成意欲を満たしてあげること

「一番は勉強、二番目に大好きなサッカー」をモットーに、運営の考え方は「大人たちの仲良く楽しくの満足度のアップ」、この雰囲気は自然と子供に映ります。そして何よりも子供の満足度アップです。

コーチには13ページに及ぶ指導参考書を作って配布をし、レベルアップを促しました。

母親に対しては、食育のテキストとビデオを用いた研修会を開催、熱中症予防の勉強会も実施、また、2か月ごとに連絡会を開き、円滑な部活動の一助としています。1993年のJリーグの発足、2002年のワールドカップ開催と、日本のサッカーは格段に進化を遂げました。子供たちは、「世界で最も美しいスポーツ」に出会い、興奮し、

感動し、憧れを持ち、大きな夢を抱いて入部してきます。大きなモチベーションを得た子供たちにその達成意欲を満たしてあげることがコーチの使命です。

将来につながるサッカーとの出会いに、最初に出会う指導者として心に残るコーチとして接したいと思っています。

◆マンツーマンの指導体制を作る

創部4年目から、武蔵野青年の家などを借りて夏合宿を行ってきました。平成元年から、当時の井貝校長先生の配慮と支援を賜り、小学校の体育館宿泊と校庭での練習の合宿が恒例行事となり、現在に至っています。

遠征費の削減と社会的インフラも整備され、保護者の安心感があります。お手伝うお母さんたちも、朝、昼、夜の当番制にして、家庭に負担をかけない工夫もしています。4、5、6年生が参加、土曜、日曜日にはOB達の手伝いが30余名になり、コーチと併せほとんどマンツーマンの指導体制です。歴代の校長先生も感心しています。

井貝校長先生の時代に、私が進める朝の練習を2階の職員室から見ていた校長先生が、「あなたはこんなキツイ事を何で子供にやらせるのですか」と問われ、「はい、楽しいサッカーをするための基礎体力作りをしています。授業中に居眠りをしない程度に抑えています」と答えると、「わかりました」と理解してくれました。5年後の退官の際には、切望していたシューティングボードを設置していただきました。

◆自己研鑽に努めて

日本サッカー協会の審判員資格は3級を



57歳から少年少女指導員、準公認指導員、日本体育協会C級指導員を取得し、自己研さんを重ねました。

係わって以来の代表も、一昨年の110名が参加した30年記念行事を機に次世代に譲りました。現在はコーチとして、相変わらずの朝練習と土曜、日曜日の低学年生への指導に精を出しています。併せて、小平第十小学校全校生徒の健全育成にも係わって27年、会長になり7年目です。

フランスのル・メール監督の「学習することを止めた時は、教えることを止める時だ」を肝に銘じ、「世界で最も美しいスポーツ」を楽しんでいます。

第10回 同窓会ゴルフコンペ

館高同窓会(岩瀬弥市会長)は下記により今年の懇親ゴルフコンペを開催します。

・期日 平成21年5月13日(水)

・会場 板倉ゴルフ場

参加希望者は、本校同窓会事務局まで詳細をお問い合わせください。(TEL 0276-72-4307)

年 会 費 納 入 の お 願 い

平成21年度(平成20年10月～平成21年9月)の年会費(2,000円)を未納の方は下記へご送金いただければ幸いです。

なお、運営費が困窮している関係から今後、各種のご案内は会費納入者を優先させていただきます。深いご理解のうえご協力をお願いします。

郵便振替加入者名：館高東京同窓会 No 0160-3-178406



生涯スポーツ!! グラウンド・ゴルフ

S35 年卒 谷田部 和之

最近、グラウンド・ゴルフ（G・G）を週に3回ほどやっています。既に楽しんでいる人もいることかと思いますが、いわゆるゴルフとはまた違って、高齢者や身体の弱い人には最適な生涯スポーツとして楽しめるものの一つではないかと思っています。

◆高齢化社会の健康増進策として誕生

このG・Gは、鳥取県の泊村（現在は湯梨浜町）という小さな村で、昭和57年、高齢化が進む村民の健康づくりの一環として取り組んだのが発祥といわれています。現在は、社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会という全国組織があり、また各都道府県にそれぞれ協会が置かれ活動しているようです。

G・Gは、合成樹脂でできたテニスボールほどの大きさの硬いボールを、ゴルフのバターヘッドを大ぶりにしたスティック（クラブ）で、15m、25m、30m、50mの距離に置かれた直径36cmのリング（ホールポスト）内に、ゴルフのバッティングの要領で、何打で入れるかを競うものです。

打ち出し場所（いわゆるティグラウンド）およびホールポストの置かれる場所は、ベアグラウンドでも芝生でも、そしてホールの途中はアップダウンがあってよしなくてよし、と所定の距離が確保できれば学校の校庭、駐車場、公園、サッカー場など場所を選びません。もちろん専用コースが全国各地にあります。

設定されたコースを、通常4、5人で、多い場合は7～8名がグループになってラウンドします。打数計算は個人毎であり、自分

の打数が多くなってもゲートボールのようにチーム合計の成績で競うのではないので、他人に迷惑をかけることもありません。いかに少ない打数でホールアウトするか、ボールコントロールに励むのです。

◆ゴルフより厳しいコースコンディション

コースは、整備された平らな面とは限りません。小石や枯れ枝、雑草の根や木株、小さな窪みなどが散在していても、あるがままの状態です。打球の向かう方向に障害物があっても取り除けません。そのままです。そのため打ったボールが小石などに当たって、思わぬ方向に跳ねたりするのはよくあることです。

また、ホールポストは穴でなく直径2～3mmの太い針金で出来たリングが地面に置かれているだけなので、打球の勢いが強いとリング内に向かったボールが通り抜けてしまうこともしばしばです。ゴルフのバッティングと違うところです。こうして距離の異なる四つのホールを2箇所ずつ、8ホール巡って1ラウンドです。通常4ラウンドが単位なので、結構な距離を歩きます。

私達の練習は4ラウンドに限らず5、6ラウンドしますから、約2、3時間位の間には4,000～5,000歩前後を歩き、結構な運動量になります。もちろん、体調の悪い人や足腰に故障を抱えている人は適当なラウンドで切り上げますが、本人次第で誰も何も言いません。この手軽さもG・Gの魅力です。

◆病後のリハビリに

がんで背中を40cm余りも切り、その後の

8ヶ月余の入院生活で思うようにゴルフクラブが振れなくなり、家の中に閉じこもり勝ちだった妻は、G・Gに誘われ、ボールを打ち、適度に歩きそして大きな声を出し、休憩時間に仲間の皆さんと会話し、心身ともにすっかり元気を取り戻しました。今では週に3回の練習では物足りず、200人、300人と集まる各種の大会に参加するのを心待ちにしています。

こんなスポーツなので、私の所属しているクラブは、町内会レベルで50名ほどの人がメンバーになっていて、近所の公園をホームグラウンドにして楽しんでいます。パワーをさほど必要とせず、金銭的にも手軽に始められることから女性も多数参加していて、最高齢者は84歳、最若年者は59歳、平均年齢70歳を越すクラブです。近隣で開催される大会などでは、成績上位者が女性ばかりという事もあるくらいです。

◆地域のコミュニケーションツール

当初、近所の方に、妻の病後のリハビリに良いからと参加を勧められ、「一人では参加しにくい」という妻の付き添いとして参加したG・Gですが、最近が高齢者や身体の弱い人の生涯スポーツとして大変理にかなったものと思っています。

私自身、会社人間でリタイアするまでは地域との交流もままならず、クラブに参加するまでは、同じ町内の人といっても近所の人以



外は会話する人も限られていました。練習に参加するようになって、より広い地域の多くの人と、G・Gに限らず家庭のこと、地域のこと、趣味やこれまでの人生など多くの会話が楽しめるようになってきました。

G・Gは、発祥が鳥取県だったということもあるのか、関東地方よりも中国地方や九州など西日本で盛んのようなのですが、全国にもっともっと普及して良いスポーツと思われると思います。現に旧岩槻市（現在はさいたま市）では、10数年前から市民の健康増進のための生涯スポーツとして行政が積極的に取り組み推進していると伺っています。

今はまだ、ゴルフが楽しく、コースへ出て行く朝はどんなに早くとも一人で起きられる私ですが、ゆくゆくはG・Gの練習日が待ち遠しくなるのではないかと思います。始めました昨今です。

「ふる里への想いをつづろう」

故郷館林市では一昨年、市政上初めての館高OBの市長が誕生しました。そこで安楽岡一雄（昭和41年卒）市長を囲む会を企画する所存です。東京同窓会の会員諸氏におかれましては、故郷活性化に対するアイデア、ご提案など、ふる里への想いを下記の要領にて纏め、ご提供頂ければ幸いです。時期を選び皆さんと共に館林市長との語らいの会を持ちたいと存じます。

記

原稿字数：800文字

原稿締切：平成21年4月末日

送付先：〒273-0027 千葉県船橋市海神西1-1193-1-1006 大隈清彦

おうら 「邑楽」の呼び方

かつて館林は、邑楽郡の中心であった。古代人はこの一帯をオオアラキと呼び、「大荒城」などと書き表していた。奈良時代の和銅6年(713)に、朝廷の命令にのっとり「邑楽」の表記に統一されたが、平安時代の辞書によるとこれも「於波良岐(オハラキ)」と読まれていた。それでは、現在のようなオウラの呼び方は、いつごろ定まったのだろうか。

延文5年(1360)に作られた『神風抄』(しんぼうしょう)では、「邑楽」に「ヲアラキ」の読みが付けられている。また、天文17年(1548)の雷電神社(板倉町)の棟札には「上州佐貫庄大荒木郡」、天正19年(1591)の田嶋之郷(明和町)打水榎(検知帳)には「東上州大荒木郡」と書かれていて、戦国時代になってもオオアラキの呼び方が通用していたことがわかる。

同じ現象は、県名のもとになった群馬郡にも見られる。この古名はクルマで、「車」と書き表されていたのが、和銅6年に「群馬」に定められた。しかし、中世の文書や近世の検知帳から、明治初期の墓誌に至るまで「車」を使った例が幾つもあって、古代からの伝統が根強く生き続けたことを示している。これらを考え合わせると、「邑楽」を音読みしたオウラの呼び方は、江戸時代にも見えるものの、一般に通用するようになったのは、新しい地方政治の制度が整えられた明治になってではなかったかと考えられる。

— 広報たてばやし第960号「市史コラム45」より —

むじなづか 「狸塚」

東北高速道路館林インターを降りて太田方面に国道354線バイパスをしばらく走ると、「狸塚南」と表示された交差点がある。足利方面から利根大堰経由で行田方面に向かう道路との交差点だ。この交差点名を正しく読める人がどの位いるだろうか。土地の人以外には「たぬきづか」としか読みようがないこの地の名前の由来は、どこから来たのだろうか。

狸塚に住む郷土史研究家横山榮一氏(元邑楽町教育長)によると、「貴塚(むちのつか)」がなまって定着



したものようだ。地名の起こりは、「貴塚(むちのつか)」であり、古代から長い間呼ばれているうちに、発音がなまって「むじなづか」になったというくらいに、大正生まれの横山氏たちが考えたのだと言う。

説によると、古代はこの地区を中心に交通が発達したと推測され、狸塚台地の南端にある高原地区の貴宮山(むちのみややま)と呼ばれた山頂に「貴明神(むちみょうじん)」が鎮座していたといわれる(移転して現存している)。

現在の地名が登場するのは、応永9年(1402)の熊野那智大社文書で、「室積房分在所 ムシナ塚 — 上野国先達門蔵房引権那等一円譲之」と記されている。さらに、文明18年(1486)の同文書「つつみ藤左衛門且那売券案」には「上野国狸塚円光坊」と漢字で書かれており、これが文書の上での初登場とされている。また、文字については、同文書に書かれている「ムシナ塚」に濁点が付いて「ムジナ塚」となり、この「ムジナ」に文字を当てるとき、動物の貉と狸が同体であるところから「狸」の字が当てられた。これが「貴塚」が「狸塚」と書かれるようになった経緯と、横山氏ら郷土史を研究している人たちが言っている。

— 上毛新聞平成15年12月6日付ふるさとの地名 No.52 から一部引用 —

<p>テクニカル コーディネーター 建築家</p> <p>大隈清道 (29年卒)</p> <p>〒273-0022 船橋市海神西 1-1193-1-1006 電話 0474-33-6790</p>	<p>館林高校東京同窓会名誉会長 群馬県人会連合会会長代行・副会長</p> <p>鈴木敏男 (23年卒)</p> <p>連絡先 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-55-7 ナナコービル 七陽商事株式会社 電話 03-3663-7740</p>
<p>株式会社 リアルエスペーススタジオ</p> <p>代表取締役 宇治川 譲 (29年卒)</p> <p>〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨1-19-18 ウメデンビル 電話 03-5907-5812(代) FAX 03-5907-5814 HP http://www.real-sp.co.jp</p>	<p>蒔葉法律事務所</p> <p>弁護士 蒔葉昌司 (27年卒)</p> <p>〒106-0031 東京都港区西麻布3-21-20 霞町コーポ 709号室 電話 03-3478-0877(代) FAX 03-3478-0879</p>
<p>有限会社 五月印刷</p> <p>代表取締役 小林淳一 (28年卒)</p> <p>〒102-0074 東京都千代田区九段南3-3-2 サンテラス九段南103 電話 03-3264-2388 FAX 03-3230-2587 E-mail: k.satuki@dream.com</p>	<p>学校法人 関西外国語大学 関西外国語大学・大学院 関西外国語大学短期大学部</p> <p>教授 内田信也 (30年卒)</p> <p>自宅 〒177-0044 東京都練馬区上石神井1-3-16 電話 03-3594-1173</p>
<p>小林公認会計士事務所 公認会計士・税理士</p> <p>小林功一 (34年卒)</p> <p>東京事務所 〒123-0851 東京都足立区梅田8-5-6 電話 03-3880-2187 FAX 03-3880-2138 群馬事務所 群馬県邑楽郡邑楽町中野3013-14 電話・FAX 0276-86-1844</p>	<p>相澤・藤井法律事務所</p> <p>弁護士 相澤建志 (36年卒)</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22 電話 03-3574-0880(代) FAX 03-3572-0028 E-mail: aizawa-1-o@nifty.com</p>
<p>ホテル グランドパレス</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区新大塚1-1-1 電話 03-3264-2401 (ダイヤルイン) HP http://www.grandpalace.co.jp</p> <p>総務部長 河村 博 (31年卒) (特定社会保険労務士)</p>	<p>弁護士 中村 茂八郎 (25年卒)</p> <p>自宅 〒145-0062 東京都大田区北千束1-15-1 電話 03-3717-8802</p>

国際人の自覚を持とう



S30年卒 内田 信也

◆国際共通語としての英語

小渕元首相の在職中、総理の諮問委員会が「英語を将来公用語にする」という提案をしました。これには多くの学識者が賛否の論評を出したことは記憶に新しいと思います。

世界の現実を見ると、英語が出来るということは努力目標どころか、出来て当たり前、出来なければ決定的に不利というところがあります。今はインターネットを通じて世界とつながっています。そこでコミュニケーションは、すべて英語を媒介として送受信が行われています（これは英語を母国語とするイギリスやアメリカとの関係だけのものではないのです。英語は世界をつなぐ共通語・国際語の働きをしているのです）。

現在、政府もIT革命と銘打って、パソコンの普及に全力を尽くしています。ビジネス、特に高度技術産業は、パソコン無しでは生きていけません。そのプログラムで使われる言葉の八・九割は英語であります。科学の分野だけでなく、人文科学の分野でも、国境を越えて毎日のように発見があり、新しい理論や新しいアイデアの情報が送られています。その情報を交換する唯一の道具が英語であります。このように英語は重要な外国語、国際語になっているのです。

◆外国語の学習は母国語（国語）から

その外国語の学習には読み、書き、話す、聞くがあります。「話す」「聞く」ことは日常使いさえすれば、単なる慣れで上達できると

言われています。しかし、日常会話がうまくなくてもすぐ実力にはなりません。情報を得て考えるには「読む」力が必要なのです。

日本の英語教育は、受験英語といわれて批判は多いのですが、そのおかげで、日本人の「読む」能力は相当なものであると評価されています。最後の「書く」力こそが、日本人のものの考え方を世界に発信する強力な武器となるものです。これが最も難しい問題です。これは日本語や日本人のものの考え方と、イギリス人やアメリカ人のものの考え方の違いについて理解出来なければなりません。つまり、「外国語に習熟するには、母国語に習熟すべし」ということです。

書くためには、語彙を豊富にしなければなりません。その最良の手段は、古典を読み、優れた文学作品をたくさん読むことです。その語彙を用いて論理的に文章を組み立てる訓練を積み重ね、「書く」力を養うのです。そういう堅固な土台があって初めて、外国語を学ぶときの支柱が出来るのです。そもそも外国語を使う目的は、その人の感情やものの考え方を相手に伝えることにあるのですから、伝える内容がなければ、いくら上手に「書き」「話し」ても、それだけのものなのです。

二十一世紀は、IT革命により、グローバル化し、英語はますます「国際共通語」として定着していくものと思われます。私たちはグローバル化時代の進展の中で、生活していく能力を高め、国際人の自覚を持たなければなりません。

創立25周年記念事業を振り返る

— 記念誌編集を中心に —



S25 年卒 中村 茂八郎

§ はじめに

1. 当会創立25周年記念事業の柱は3本であった。

その1は祝賀会であり、その2は記念誌の発行であり、その3は記念ゴルフコンペの開催であった。

その1とその3は、例年の行事に「25周年記念」という冠をかけることで足りるが、特段の準備が必要だとすれば招待者の範囲とか当日の運営の問題であり、恒例を拡大することで一応は進められるが、その2の記念誌については大いに議論が必要であり、多くの課題を消化する必要があった。

その課題の最大難関は、資金面の心配であった。当然に集まるという保証は在り得ないことであり、発想段階では暗黒模索という状態であった。しかし、25年目という動機は強力に役員的心を動かし、今考えると無謀と言われても仕方の無い雰囲気の中で「何とかやるさ」という楽観論がどちらかという支配的となって行った。

結局、原稿が集まるかどうか分からないから企画自体を進められないという結論には、無意識的に拒否する流れとなり、会員に呼びかけてその反応を見てから再検討することも出来ることだとして、取敢えずの準備を進めることになった。

2. その状況は、平成16年の総会終了後

の雑談から始まって、平成17年春の理事会への提案や議題を検討する同年2月の三役・事務局会議で、役員の中に記念事業準備小委員会（仮件）を設置することが決定されて事実上の検討開始となった訳である。

しかし、準備小委員会でも予算を立てる迄には到らず、4月5日の理事会に企画立案の許可を討議していただき、記念事業の検討が承認された段階で、やっと本格的な企画策定作業が始まるという経過であった。

§ 実行委員会の活動

1. 実行委員会は会員から40名余りを委嘱し、平成17年12月17日に第1回委員会を開き、部会を設置し、検討を具体的に進めた。

部会は、総務、式典、記念誌、名簿の4部会を置いたが、名簿部会は呼びかける範囲の問題で早速難関を抱え込んだ。つまり、個人情報保護の観点から呼びかけの範囲の確定（名簿再確認）問題があった。しかし、名簿は新しく造らず、既に登録されている全会員1729名の全員を対象とすることで解消した。

総務の資金調達は、特別年会費の徴収を理事会にお願いすることとして、一応の第一ハードルは越していたが、寄付・広告問題では、館林高校80年という歴史の長さの割に在京財界や実業界への浸透が思ったより進んで居ない現実に直面した。つまり、集める目途が立ち難い状況が最後まで続いたと言って

過言でない。

式典部は当日の企画運営について江原副会長を部長として着実に進んでいたが、記念誌部は予測出来ない原稿集めと、アンケートの企画で思いがけない苦勞を強いられることになった。それでも17年12月から18年2月と3月の3回の実行委員会で企画の確定作業を焦点として進行し、全会員への呼びかけ文や、座談会の企画、アンケートの内容等が完成し、企画決定段階は一応スムーズに実行段階へと進むことになった。

2. 企画実行段階に進んだ実行委員会は、平成18年4月始めの理事会に実行委員会の討議経過を報告しその承認を得ることが先決であり、殊に特別会費2000円を今までの年会費2000円と併せて4000円の納入を会員にお願いすることが最初のハードルであった。

幸い、企画や会員への周知方法などと共に理事会の承認を得て、本格的に進行することとなり、各部会の作業も進み4月下旬には全会員への呼びかけとして、総会案内、原稿募集、アンケート依頼、会費納入、広告等をお願いする通知の発送へと漕ぎつけた。

3. この事務的作業と並行して座談会も「25年を振り返り、明日を拓く」と題して



実施されて、その反訳も費用節約のため事務局の手で行われた。また、編集作業についても、26年卒の印刷業小林副会長の家族ぐるみの奉仕的協力が得られて、着々と進んで行き、アンケートの集計や分析も山岸副会長の専門的且つ、献身的作業によって進行した。

4. しかし、会員の原稿の集りが少なく、原稿締切日の6月15日を過ぎても記念誌の発行が危ぶまれる程の数しか集まらなかった。そこで記念誌部委員は義務としてでは無くても原稿執筆を行わない訳には行かない状況に立たされた。

その結果、委員の原稿も集まり、併せて資料編を詳細にするなどの努力と共に、記念誌を発行するに足る原稿を確保することが出来て、300頁程の本の発刊が可能となり、200万円の発行費予算も何とか会費と寄付等で賄うことが出来そうな見通しがついた。

ところがである、何故か原稿締切り後になって会員の寄稿が続々と続き、結局400頁を超える原稿が集まって来た。記念誌部会は、嬉しい大慌てをすることになったのである。つまり、原稿が多くなり頁数が大幅に増加すれば発行費用も増加するのは当然であり、200万円の発行費予算で賄えるかどうかの危機が生まれたのである。そこで、改めてスケジュールを調整したり、広告や寄付のお願いを地元企業などをお願いしつつ、経費節減を極力進めた。その結果は編集主幹の小林副会長や事務局の会員に必要以上の労力を提供して頂く結果となり、そのご苦勞には感謝の詞も無い程である。

5. そんな経過をふまえて、7月の第4回実行委員会と8月の第5回実行委員会で実質的な記念事業の内容が確定し、夏の理事会にその経過の実際を報告出来るようになった。当時の原稿数約60編、アンケート回答95名、寄付者70名であり、400頁超の記念誌となること、そして予算は発行費を200万円で仕上げる見通しであること等が8月23

日の理事会で報告された。

6. 印刷部数や配布方法についての実行委員会での議論の経過は、会員の東京同窓会参加の実績等を分析した結果(表1参照)、平成15年以後に何等かの形で東京同窓会に寄与のあった会員(会合参加や会費納入等)が、全会員中に約400名存在することが確認されたことから、その方々には無償配布し、関係方面への贈呈と併せて500部は必要であり、その他希望者へは有償で配布することとして、保存分と併せて700部印刷することが決定された。

予算的には、記念誌発行費200万円の他に会議費や発送費などの諸経費と式典祝賀会経費を入れれば、約100万円を寄付等で更に集める必要性も確認されたが、もう後へは退けない原稿数となっており、秋の総会前に配布出来るようにすることで理事会の承認を頂戴した。

7. 記念誌の編集は、小林副会長の機微的奉仕に支えられ、またその装丁は宇治川理事

(29年卒)に専門的知見に基づく無償の力を戴いた。更に巻頭を飾る口絵も会員の無償提供を受けることが出来た。先輩画伯の絵画や、吉永会員(28年卒)の山岳写真、江原・小林両副会長の写真がそれである。特筆すべきは恩田進吾画伯(21年卒)大塚荘治画伯(23年卒)の絵画を巻頭に掲載出来たことであり、感謝するばかりである。

そして原稿の割付も来賓の前段は当然として、会員原稿は幾つかのジャンル別に単純に卒年順として印刷に廻したのが、10月中旬の配布に必要な最終期限の9月15日だった。

結局、思いがけず分厚い500頁を超える記念誌が出来ることになったが、原価は3000円を超えることが決定的となり、いくつかの試算の重なり複雑な気持ちで作業を続けた。

8. そして、18年10月7日、第6回実行委員会で総ての準備の終了を確認し記念誌の試験刷りも見て、10月21日の総会に臨むことになった。

完成した記念誌は、国会図書館をはじめ、

表1 東京同窓会参加者等内訳表

H18.8.28現在 東京同窓会事務局作成

平成15年編成の名簿に登録された会員のうち、平成15年以後に1回でも年会費を負担し、あるいは会合に出席するなどした方と、今回の25周年記念事業への協力者を含めた、10年ごとの卒年別分布内訳表です。

名簿記載者数は、今回の案内で返送された方を削除した後の人数です。

原稿執筆者は、資料執筆者を除いた人数です。

(数字:人)

卒年	昭和2 ~20年	昭和21 ~30年	昭和31 ~40年	昭和41 ~50年	昭和51 年以後	合計
名簿記載数	134人	475人	581人	323人	138人	1651人
H15年以後会費支払い等協力者総数	43	183	131	24	18	399
上記399 人中	寄付者数	11	37	19	0	70
	アンケート回答者数	8	50	32	2	95
	原稿執筆者数	5	30	9	1	45

館林近在の図書館に寄贈された。会員については、前記400名の会員に總會前に直送された。勿論、本校や本校同窓会にも相当数が寄贈された(残部は19年8月現在で数十冊余りを残すのみとなっている)。

そして、実行委員会は平成18年11月20日に任務を終えて、記念事業の報告をまとめて解散した。

§ 終りに

記念事業の報告は、費用の関係から全会員1700名余(返送が100名弱あるが)に配布することが出来ず、前記400名に限らざるを得なかったことが誠に残念である。

心配された予算は、特別会計を採らずに一般会計の全費用を投入したことにより、どうにか黒字で終わることが出来た。

ここに改めて、会員の皆様の活力に感謝しつつ、ご協力に心からの感謝を捧げる次第です。平成19年8月10日(筆者は当時の記念誌部会長)

“楽しむ会”立ち上げへ!! 会員募集

館高東京同窓会は、先の第27回総会で“組織の活性化”に取り組むことを改めて決定しました。その一環として、趣味の会を新設することになりました。

現在のところ、「ゴルフ部会」(部会長中村茂八郎氏=S25年卒)のみが活動しています。同部会は、春は本高同窓会主催の板倉ゴルフ場でのコンペに参加しています。また秋には、独自のコンペを開催する活動を行っています。会員諸氏におかれては、多彩な趣味をお持ちになり、常日頃楽しまれていることと思います。年に数回、趣味を同じ

くする同窓生の方々が一堂に会して楽しむひと時を持つのも一興かと、下記の部会を設けることを提案します。ぜひご参加ください。また、下記以外にも様々な“楽しむ会”立ち上げの提案をお待ちしています。

[立ち上げ予定の楽しむ会]

1. ハイキングを楽しむ会
2. グラウンド・ゴルフを楽しむ会
3. カラオケを楽しむ会
4. 民謡を楽しむ会
5. 故郷の歴史を探索する会

申込先: 大隈 清道
〒273-0027 船橋市海神西
1-1193-1-1006
TEL/FAX 047-433-6790



「館高東京同窓会二十五年誌」は若干の残部があります。ご希望の方は、氏名と卒業年、送付先をお書きいただき、下記宛に費用を添えてお申し込み下さい。

・頒布価格 3,500円(送料込)

・申込先 谷田部 和之

〒343-0021 越谷市大林7-4-5

TEL. 048-974-6012

編集後記

第23号の会報発行が、役員会から指定された期日内にお届けできることになりホッとしています。

本号では、従来の会報に比べ若い会員の方々からのご寄稿をいただくことができ、また、小さなコラムを設けるなど、新しい試みにも挑戦できました。ご協力いただいた会員の方々に感謝申し上げます。

会報は、会員の皆様に同窓会の活動をお知らせできる唯一のツールです。そのため一層の充実を図っていかねばなりません。会員皆様からの御意見をお待ちいたします。と同時に、会員皆さんの同窓会活動への一層の参画が求められます。

本号の中での「会費の納入」「観桜懇親会」「楽しむ会」など、さらには次号への投稿等々ご協力よろしくお願い申し上げます。

(K. Y)